

個人山行報告書

通算山行NO	NO. 1390	報告者	後藤隆徳
年月日	2009年12月12日(土・曇・地吹雪)	2万5千	須走・印野
山名	富士山・宝永山(2750m)		
体力度=4・やや厳しい 技術度=4・やや難しい 道標=ある 駐車場=ある トイレ=ない 展望度=よい 三角点名=ない 等級=			
今季初の山岳スキー			
コース とタイム	下土狩5:00—洞門発6:00—御殿場口—旧測候所中継小屋—宝永山 直下10:30—スキー終了12:00—洞門13:00		
標高差	上り 洞門約1280m~宝永山直下約2700m=約1420m 下り " "		
参加者	L後藤、山本、ほか		



昨年と同様だったが、暖冬で12月に南岸低気圧が沢山通過し、富士山に多くの降雪がもたらされた。

先週もかなり美味しそうだったが、所用で未実施。今週は満を期して出掛けた。

とは言えまだ12月。昨年は二合目(標高約1400m)まで歩いたが、今年は更に上の約1600mまで歩く。しかし、この時期12月に富士山でスキーが出来るのは「安・近・短」

でサイコー。同行は山本と元会員のN。

天気は荒れ模様で、早くも宝永の稜線には地吹雪がバンバン上がっている。でも、その割に気温は高い。1600mからシールで上る。

標高約2100mの旧測候所中継小屋から雪積量は全く問題ない。しかし、やや重たい湿雪でトップのラッセルは苦しい。

若い山本はガンガン飛ばす。寝不足の私は、やや厳しい。約2500mでNは降りた。ここからブリザート(地吹雪)は更に強くなる。日本海の低気圧の影響だ。

標高約2700mで終了。滑降は素晴らしいものだった。半年ぶりに五感に伝わるスキーの感触!!

途中で大コケして話した相手は、M労山のS氏だった。最後までキッチリ滑り本日は終了。今季初山岳スキーはサイコーだった。



